

都市と山里との交流 白山山麓「古戸ひじり会」



散策マップを手に初澤会長（右）と佐々木副会長



ふっと 初澤宣亮さん
 ～古戸ひじり会～ 会長
 はつざわのぶあき
 町会議員活動の傍ら精力的に地域活動に取り組んでみえます。趣味は特にありませんとのことですが、やさしい人柄で皆さんから慕われてみえます。

副会長 佐々木経人さん
 ささきつねと
 花祭りでは、神事を取り仕切る花太夫をつとめられています。歌舞伎の世界でも有名で東海地方を飛び回り、各地の歌舞伎に出演してみえます。

訪問日：平成 25 年 3 月 18 日（月）
 取材者：山村振興課 稲石、鈴田

東栄町は愛知県の北東部に位置する人口4千人弱の町で、周囲を山々に囲まれた中山間地域です。町の北西部にある古戸（ふっと）地区は、人口約200人で、そのうち65歳以上の高齢者が半数を占めています。過疎化や高齢化で地域の担い手が不足し、集落活動を維持することが困難になっています。そんな中、情熱を持って地域の課題解決、活性化に向けた取り組みを行っている「古戸ひじり会」会長の初澤さんと副会長の佐々木さんにお話を伺いました。

はじめに、古戸（ふっと）ひじり会立ち上げの動機をお聞かせください。

平成20年4月に「古戸ひじり会」を設立しました。古戸の過疎化、高齢化に危機感を持ったのがきっかけです。都会から人に来てもらおうと、交流の場として「古戸おいでん塾」を開催し、農業体験、植栽、間伐材の活用、伝統文化の継承などに取り組んでいます。

ひじり会の名前について、語源があるとお聞きしましたが・・・。

花祭りに深い関係を持つ白山神社は、延喜年間（西暦901年頃）に京から来た一人の聖（ひじり）が加賀の国、白山



野菜の作付け作業

祭神 菊理姫命（くくりひめのみこと）の御分霊を奉載し、現地に祀ったことから始まります。この聖は山伏であり、村に疫病がはやった時に加持・祈禱を行い村人を助けたなど村にとって恩人で、あやかっつつけました。柔らかな感じにしたかったので、ひらがなの「ひじり会」としました。

活動状況を具体的に教えてください。

おいでん塾の主力は、農業での耕作体験で、とうもろこしや天狗ナス、じやがいもなどを栽培しています。都会で暮らす人たちにとって、土いじりは新鮮に映るようです。5年の活動では、なかなか定住までとは難しいですが、焦らず勉強しながら良い方向性を見出していききたいですね。

塾生は何名ほどいらっしゃいますか。

5年目になる平成24年度も「古戸おいでん塾」を開催しており、各会概ね20人前後が参加しています。これまでの塾生は100人を超えています。長年来ている塾生には、準スタッフとして古戸ひじり会を支援してもらっており、日常的な交流にもつながっています。

苦勞される点も多いと思いますが、そうですね。活動がマンネリ化してきていますので、少しずつ内容を変えながら活動しています。塾生は週末しか来られないので、野菜に毎日水をやったりするのは私たちの仕事ですね・・・。

あと、丹精込めた野菜も、サルや鹿が悪さをするので困っています。これは、どこの地区も同じようなものですね・・・。

古戸散策マップを作られたそうです・・・。

古戸地区の住民や、「古戸おいでん塾」塾生、地区で実地調査を続けている愛知大学中部地方産業研究所岩崎正弥ゼミナールの学生ら30人で、一昨年7月からのミーティングを重ね作業を



総合案内看板

進めてきました。

その散策マップにあわせて地区内の名所旧跡等に、地域の間伐材を使った総合案内図やいわれなどが掲載された看板などを設置しました。

最後に、将来の夢など・・・。

来年度は、年間を通じた古戸おいでん塾の活動ではなく、「古戸応援隊」による活動を中心に行います。塾生に「応援隊」になってもらい、草刈りや耕作など人手が必要な時に来てもらえるようにします。また、年数回の収穫体験イベントを行い、これまで関わっていない地域の人たちを巻き込みながら地元の人々の参加を促し、古戸ひじり会の体制を強化したいと思っています。2か月に1回程度、持ち寄り出前カ

フェと命名し、高齢者を対象としたお年よりのたまり場や、ふれあい交流の場を作り、住民同士のコミュニケーションを図りたいと考えています。また、第2農場を使ってハーブの栽培も始めたいと思っています。うまくいくかわからないけど、色々チャレンジしていきたいですね。何もしなくては何も始まらないので・・・。

活動を体験してみたい、参加してみたいと思われの方はどのようにしたらよいでしょうか。

東栄町のホームページ（移住・交流推進事業、中日新聞の県内版（平成24年4月）に、小さく掲載されましたので見逃さないように。（笑）） 皆さんぜひ参加をよろしく願います。

私も古戸マップ片手に散策をしましたが、美しい景色をみながら森林の中を気持ちよく歩くことができました。判りやすい看板からは、集落活動の維持や解決に取り組んだ地域住民、田舎暮らしを希望する都市住民、愛知大学生らの思いがひしひしと伝わってきました。



ふっとおいでん農場

心なごむ風景を見に、是非、足を運んでみてはいかがでしょうか。



農場の説明を聞く

今日はとてもお忙しいところありますが、どうもありがとうございました。